

# 航空機装備品の実証試験インフラの整備

- 国内航空機産業および装備品市場拡大に向け、国内で環境試験が可能な拠点の整備が急務。
- そこで日本初となる環境試験拠点を長野県飯田市に整備するため、国、自治体、航空機関連企業等からなる「環境試験等インフラ整備に係る課題検討WG」を開催し、環境試験設備の整備や運用体制を検討。
- 長野県では、「長野県航空機産業振興ビジョン」（2016年6月）を策定するとともに、飯田市ほか13町村と一体となって地方創生交付金等を活用しながら、「着氷試験設備」（2016年度）、「防爆試験設備」（2017年度）「燃焼・耐火性試験設備」（2018年度）等の整備・運用を進めている。



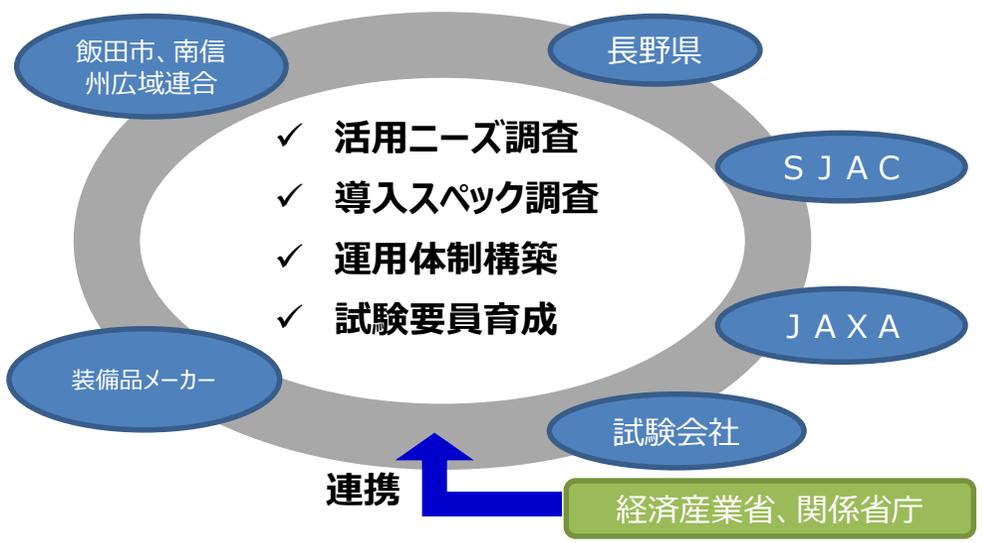
旧飯田工業高校跡地

環境試験設備導入、シュミレーター導入、  
検査機器導入、校舎改修、など

- ・地方創生上乗せ交付金
- ・地方創生加速化交付金
- ・地方創生推進交付金
- ・地方創生拠点整備交付金

「環境試験等インフラ整備に係る課題検討WG」の設置  
(H28.4~)

事務局：日本航空宇宙工業会(SJAC)、経済産業省、関東経済産業局  
委員：国土交通省、文部科学省、自治体（長野県、飯田市）住友精密、島津製作所、ナブテスコ、ジャムコ、多摩川精機、東京航空計器、横河電機、EMCJ、JAXA



# (参考) 長野県南信州地域に導入された環境試験設備

## 着氷試験設備 (2016年度導入)

人工的に発生させた寒冷な流れの中に試験体を置き、表面が着氷した場合にも正常に作動することを確認する試験設備。

### (機体スペック)

気圧範囲：101.3kPa～10.7kPa (大気圧) (高度52,000ft相当)  
温度範囲：-70℃～100℃ (大気圧) -60℃～100℃ (10.7kPa : 大気圧)  
湿度範囲：20%RH95%RH  
試験槽内：W1,500×H1,500×D4,000mm  
試験槽外寸：W3,380×H2,835×D5,100mm



## 防爆試験設備 (2017年度導入)

爆発状況下においても、正常に作動することを確認する試験設備。

### (機体スペック)

圧力範囲：101.3kPa～4kPa  
(大気圧) (高度100,000ft相当)  
圧力降下時間：101.3kPa～4kPa15分以内  
温度範囲：10℃～260℃  
温度上昇時間：20℃～150℃90分以内  
使用燃料：N-Hexane (ノルマルヘキサン)  
メインチャンバーサイズ：内径Φ1.5m×奥行2.0m  
サブチャンバーサイズ：内径Φ0.25m×奥行0.25m  
内部照明、高速度カメラ付、マンユピユレータ使用可、プログラム運轉、定値運轉、マンユアル運轉可



2018年度は、燃焼・耐火性試験設備を導入